

道徳科の授業における対話活動に対する補助教材の提案

○中田順子(東京女学館小学校)

梶井芳明(東京学芸大学)

キーワード: 対話活動, 聞くこと, 補助教材

問 題

小学校では2018年度から、これまでの「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として教科化され実施されている。教科化の背景として、中央教育審議会答申(2016)は、従来の道徳教育が、読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った指導が行われていたことを課題とし、「考え議論する道徳」へ転換する必要性を指摘している。

道徳の教科化に伴い、文部科学省の検定を経た教科書の使用が義務付けられると共に、文部科学省(2014)は、「授業の展開に中心的に位置付ける教材だけでなく補助的な教材を組み合わせる」ことを明記し、教科書に合わせて、創意工夫を凝らした補助教材を用いることが有効であると示している。さらに、考え議論する道徳が求められる中、具体的にどのような補助教材を用いて対話が実践されるべきか、対話活動において重要な聞く力をどのように支えるべきか、対話が実際に児童の道徳的価値観の変化に影響を与えるのかについては、実践研究を通じた検証が急務である。例えば、高橋(1998)が、対話学習において、まず聞く力を育てないことには、よい討論はできないことを指摘していることから、今後、「聞くこと」に重点を置いた対話指導のさらなる工夫と、それについての実践研究を通じた検証が必要であると言える。

以上のことから、本研究の目的は、対話活動に対する不安や困難を改善したり、児童の対話における聞き方を支援したりする補助教材を提案、作成することである。

目 的

道徳科の授業において対話活動を円滑に進めるための補助教材を提案、作成する。

方 法

普段の道徳の授業における対話の実態を把握するため、授業観察と教師への質問を行った。さらに、それらの結果を基に、児童の対話に対する不安や困難を改善したり、対話における聞き方を支援したりするための補助教材を提案、作成した。

対象 都内公立小学校第6学年に在籍する児童30名および担任教師を対象にした。
授業観察 研究対象となる学級の道徳科の授業を観察し、普段の授業の様子や対話の実態把握を行った。

教師への質問 教師に、道徳科の授業における対話の実態や課題、児童の対話から期待すること等について質問を行った。

補助教材 授業観察および教師への質問で得られた児童の対話の実態を基に、対話活動への不安や困難を支援する補助教材と、対話活動での話の聞き方を支援する補助教材を提案、作成した。

結果と考察

授業観察および教師への質問から、対象学級の実態として、一部の児童において、対話のテーマを捉えることや対話活動での聞き方に課題が見られること、対話活動の際に児童の取り組み方や意欲にばらつきがあったことから、学級内で対話に対する有用感や不安・困難に差が見られることが確認された。

さらに、教師は児童らに、対話を通して自分ない考え方を知り、道徳的価値観を深めてほしいと期待していることも明らかにになった。

以上の児童の実態と教師の指導観を踏まえて、対話のテーマを捉えやすくするといった、対話活動への不安や困難を支援する補助教材(Figure 1)と、話の聞き方について授業し掲示するといった、対話活動での聞き方を支援する補助教材(Figure 2)を、提案、作成した。

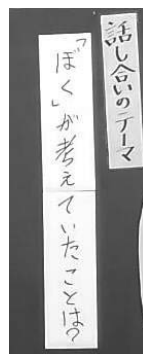


Figure 1 対話活動への不安や困難を支援する補助教材



Figure 2 対話活動での聞き方を支援する補助教材